

豊かな学びをつくるー夏休みにじっくり読む・創る体験づくり

岡山市内の学校図書館では、どの学校でも夏休みに約10日間の開館行事の日を設け、さまざまな行事を行います。この行事は、子どもたちがじっくり時間をかけて専門分野の探求をしたり、本の世界を広げたりできるチャンスです。学校司書がコーディネートし、教員、地域の方、研究者などと一緒に企画・運営していきます。

本校でもボランティアの方によるお話会や、本を活用した工作、消費生活センターの出前計量講座「はかること教室」などを行いました。子どもたちは猛暑をものともせず、兄弟や友達と一緒に元気に通ってきました。中には、お母さんと小さい妹や弟と一緒に来る姿もありました。

その行事の一つとして、夏休みの宿題の定番、「読書感想文の書き方講座」を開きました。昨年は80人の参加があり大好評だったので、今年はそれぞれの学年の子どもたちに丁寧に関わることができるように高学年、低学年に分けて講座を開きました。子どもたちは教員と相談しながら、本の気になる部分に付せんを貼ったり、感じたことを書き出したりして、集中して感想文作成に取り組みました。学校司書は本選びに困っている子の相談にのり、その子の興味や、好きなこと、今まで読んだ本の話などの会話をしながら本を探していきます。やがて、「これで読書感想文を書いてみよう！」と思う本にたどりついていきました。

そして今年初登場したのは、お話コンサートです。これは絵本の世界を豊かに表現し感じてもらおうと、読み聞かせにあわせて歌や楽器の演奏を入れたものです。『たこやはちべえりゅうぐうたび』（さねとうあきら文・スズキコージ絵教育画劇）という日本の民話にあわせ、和太鼓やチャンパ（小さいシンバルのようなもの）を効果的にならし、場面を盛り上げます。またお話の合間には音楽に合わせて参加者全員での手遊びも入り、楽しさが広がりました。この日のために音楽主任を中心に教員がリコーダーや和楽器、ギターなどの練習をしていたのです。子どもだけでなく、他の職員も参加しての大盛況の会となりました。子どもたちは、＜本と音楽を組み合わせることで、とても心に残った。先生達の歌や演奏を聴けてすごいなーと思った＞など、大喜びしていました。

こうした体験が、二学期にいきてきます。子どもや教職員との信頼関係を強くして、子どもの学ぶ力に反映していきます。夏休みの図書館行事は、多様な本を通じて、異年齢交流をしながら、学びを広げる体験活動の場です。子ども一人ひとりのペースにあわせて活動でき、どの子も「わかった」「できた」の実感を持つことができます。丁寧にじっくりと手をかけて、学び合う場を提供することが、豊かな学力の基礎づくりにつながると考えています。学校図書館で、子どもたちが安全にのびのびと遊び・学び、どこまでも探求できる場を、しっかり保障していきたいです。